

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

S15147、S25060、SK15124、SK15125

③施設の情報

名称：吉敷愛児園	種別：児童養護施設	
代表者氏名：施設長 井原 貴美	定員（利用人数）： 45名（33名）	
所在地：〒753-0816 山口市吉敷佐畑六丁目10番1号		
TEL： 083-922-2509	ホームページ：	
【施設の概要】		
開設年月日：昭和 24年 10月 1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 吉敷愛児園		
職員数	常勤職員：21名	非常勤職員：6名
専門職員	児童指導員 (12)名	心理療法担当 (4)名
	看護師 (1)名	栄養士 (1)名
	保育士 (6)名	
施設・設備 の概要	(居室数) 38室	(設備等)
	※うち火星の家8室は休止中	

④理念・基本方針

【基本理念】

- 1 子ども一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、家庭的な養育により、心豊かでたくましい子どもの育成を目指します。
- 2 子ども一人ひとりの自主性、主体性を尊重し、社会自立できる子どもの育成を目指します。

【基本方針】

- 1 児童は、成育歴の中で愛情が満たされず、特に心身に虐待を受け、心に深い傷を受けていることを確認し、語りかけやスキンシップに心がけ、温かい愛情により情緒の安定を図る。
- 2 健康と安全に配慮し、伸び伸びと生活する中で基本的な生活習慣を身につける養育をする。
- 3 自立支援計画（個人分）に基づいて、適切な支援ができていないかの評価を常に怠

らない。

- 4 家庭的養育をさらに深めるための方策として、中舎制縦割り構成さらに小規模化をすすめることにより、子どもと職員が心を合わせて生活技術を習得するよう支援する。
- 5 一対一の場を多く持ち、成長発達に応じて個々の子どもの気持ちをしっかり受け止め、常に子どもの立場に立ち、信頼関係の上で養育する。
- 6 生活の中で各自の責任や役割を果たすことにより、ひいては社会における責任や相互扶助・自治心を養えるようにする。
- 7 善悪に対する判断力、年長者への尊敬的態度、弱者へのいたわり等、社会での秩序・道徳・礼儀を身に付け、社会に適用できる人に育てる。
- 8 子どもの問題行動や不適切な養育の防止を図る為、養育向上ネットワークを活用し、職員自身が根本的な課題を見出し解決を図る。
- 9 援助が必要な障がいのある子に対しては、精神科医、セラピスト、学識経験者等を積極的に活用する。
- 10 児童相談所やその他の社会資源と密接な連携をとり、家庭支援専門相談員を中心として、家族関係の再統合に努力するとともに、巣立った子どものフォローアップにも力を入れる。
- 11 里親支援専門相談員の配置により、里親及びファミリーホームを支援する拠点として機能をもち里親支援の充実を図る。
- 12 苦情や要望等に対しては、速やかに苦情解決責任者が対応し、必要に応じて第三者委員の助言を求める。
- 13 地域における子育て支援の役割の大きさを認識し、支援活動を行う。
- 14 基礎学力の伸長に力を入れる。(公文学習の継続)

⑤施設の特徴的な取組

独立した「家」で、食事を子どもと職員とで一緒に作り、その音や香りを直接子どもが感じることができるスタイルになっています。食堂のテーブルで食事を取ったり、団らんや学習をしたりと、中舎縦割り施設という特徴が活かされた家庭的養護が実践されています。

また、平成29年9月からは寄贈された民家を改装し、小規模グループケア（分園）「ホーム UCHIDA」を開設されています。立地が同一校区で維新公園、児童センターと隣接し、近隣住宅街とも近づいたので、今後の活用が期待されます。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 29年 6月 22日（契約日） ～ 平成 30年 3月 28日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1 回（平成 26年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

- ・施設長をはじめ、職員一人ひとりが、それぞれの立場で子どもたちに愛情を持って意欲的な支援をしておられます。子どもとのヒアリングからも、のびのびと生活できていること、将来を見据えた自立支援をされていることが感じられました。
- ・食事の基本的なメニューはありますが、そのホームごとに料理を工夫したり、食堂のテーブルで団らんや学習をしたりと、家庭的な雰囲気での養護の実践がなされています。食堂のテーブルも使いやすいものになっていました。中舎縦割り施設という特徴が活かされています。
- ・自らの支援実践を見つめ直すために、第三者評価に職員全員で取り組まれています。その自己評価からは、自分たちの実践を厳しく真摯な姿勢で振り返り、改革へつなげたいという気持ちが表れています。これらの姿勢は、高く評価できます。
- ・困難を抱える子どもとその保護者を支えていくということとは、やりがいと共に大きな負担もかかります。職員のみなさんの「子どもたちのために」という深い愛情と熱意は、どんな社会資源にも代えられないものです。第三者評価が、みなさんの志を支える指標として役立つことを願います。

◇改善を求められる点

- ・施設の中・長期計画の策定が望まれます。
- ・土砂災害警戒区域にあるため、将来的には現在の場所での建物の増築や新築が難しいとのことでした。将来、建物が老朽化して修繕では追いつかなくなった場合も想定すると尚更、中・長期計画の策定が重要になると思われれます。
- ・苦情解決の仕組みについて、保護者、子ども達に周知することが必要です。第三者委員と子どもとの交流の場を設定するなど、子どもが意見や苦情を述べやすい環境づくりが望まれます。
- ・実際に現場にて的確に実践されているのに、マニュアルがない項目がありました。現場での実践を集め、整理して明文化し、未策定の各種マニュアルを策定することが必要です。
- ・策定されたマニュアルと実践を、職員参画のもとで定期的に検証・評価・見直すシステムが作られることを期待します。入所の相談から施設の生活が始まるまでの対応の手順や、退所後の支援の在り方なども策定が望まれます。業務多忙の中、大変だとは思いますが、一度システム化するとその後はスムーズに回転すると思われれます。
- ・職員の確保は早急な課題だと思われれます。これまで色々と試行錯誤される中で、いくつかのヒントも得られています。広く外部の意見を募ることも功を奏するかもしれません。また、産休後に復帰した職員がいないとのことで、人材の定着も課題です。
- ・現場の職員がスーパーバイザーとなり、後進を育成するという仕組み作りが望まれます。人に教える立場に立つということが、その人自身の資質向上につながり、存在意義と自己有用感を高め、結果として職場への定着にもつながると思われれます。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は、評価をしていただきありがとうございました。全職員で自己評価に取り組ました。評価結果を真摯に受け止め、強みは引き続き継続し、弱みは一つずつ改善に努めたいと思います。子どもたちを大切に支援することで心地よく生活ができ、「生まれてきて良かった」と思えるよう全職員で取り組んで行きたいと思います。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三評価結果（児童養護施設）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 41 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象 I 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<コメント> ・理念や基本方針について、保護者への周知が求められる。また、わかりやすく説明した資料等を作成するなど、積極的な取組が望まれることから、b 評価とした。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	c
<コメント> ・近隣の法人が集まって、地域貢献についての検討を始めたとのことで、今後の取組が期待される。 ・経営状況については、毎理事会ごとにチェックされているが、分析までは至っていないことから、c 評価とした。		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	c
<コメント> ・定期的な状況把握、分析までは至っていない。 ・施設が急傾斜地等の災害危険区域にあるため、建物の増築や新築が難しいとのことであった。建物が老朽化して修繕では追いつかなくなる場合などを想定した、長期的視野に基づく取組の検討等が望まれることから、c 評価とした。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
<コメント> ・中長期計画の策定が求められることから、c評価とした。		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
<コメント> ・単年度ごとの事業計画となっている。中長期計画の策定が求められることから、c評価とした。		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
<コメント> ・事業計画を理事会へ上程する際に、職員会議で各「家」の意見を基に、リーダー会議で決められている。 ・事業計画の策定の手順を定めることが求められることから、b評価とした。		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
<コメント> ・子どもや保護者へ説明する取組が求められることから、c評価とした。		

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<コメント> ・年1回の自己評価と定期的な第三者評価を受審している点は、評価できる。 ・加えて、職員と子どもからのヒアリング→課題抽出→5つのアクションプラン「NAP5」、という行動指針を策定し、これからPDCAのC（見直し）に入るとのことである。今後の取組が期待される。 ・養育向上ネットワークで課題把握に努めているが、その担当者以外の職員への周知が求められることから、b評価とした。		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b

<コメント>

- ・質の向上に向けて取り組んでいるので、今後は、PDCAのC（評価）、A（見直し）が求められることら、b評価とした。

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<コメント> ・施設長の思いや方針等を広報誌にて表明している。 ・施設長不在時の役割分担等は口頭でなされているが、不在時の権限委任等を明文化することが求められる。今後、策定予定とのことであり、期待されることから、b評価とした。		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	c
<コメント> ・法令集は作成されていたが、育児・介護休業法が平成29年10月改正に対応していなかった。法の改正等に敏感になり、最新の内容にすることが求められる。 ・児童福祉以外の法令についても、理解する取組が求められることから、c評価とした。		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
<コメント> ・施設長が、職員の資質向上に関心を持ち、処遇会議の総評でコメントや改善指示を行うなど、意欲的に取り組んでいることから、a評価とした。		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
<コメント> ・求人を行ってもなかなか人材が集まらない中、管理宿直の導入や宿泊のない勤務条件での募集など、人材確保のため努力している。 ・人材が集まりにくい社会情勢であるが、職員も参画しての、より一層の経営改善・人材確保へ向けた取組が求められることから、b評価とした。		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		

14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生による管理宿直や、宿泊のない勤務条件での募集、様々な求人誌への掲載など、努力をしている。また、職員の男女比率を均衡にする目標を達成した。 ・現状は、欠員補充で精一杯ではあるが、人員体制に関する基本的な考え方と方針を策定し、計画的な人事・育成をしていく必要があることから、c評価とした。 		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待する職員像を明文化している。 ・配置や異動、昇進等に関する人事基準の明確化が求められることから、b評価とした。 		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに宿泊の勤務のない勤務条件の求人募集をするなど、人材確保に努めている。また、年に3回、施設長が職員と面談し、意向の確認をしている。 ・今後、職員のワークライフバランスの向上を検討することであった。 ・「意向を確認し、改善する」ということをシステム化することが望まれることから、b評価とした。 		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長が年3回個人面談を行い、職員のスキルアップに努めている。 ・今年度より、職員一人ひとりの育成計画として、「支援上の目標を一つ、業務上の目標を二つ」設定して取り組んでいることは、高く評価できる。今後の取組に期待して、b評価とした。 		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修は、勤務体制を考慮して参加させている。 ・施設が職員に求める専門技術や資格を明示した、「職員の教育・研修に関する基本姿勢と計画」「個々の職員の研修計画」の策定が求められることから、b評価とした。 		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員に対して、年に1回は職場外の研修に参加させている。 ・個別的OJTを意識した取組が求められることから、b評価とした。 		

II-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に実習生を受入れ、マニュアルにそったプログラムが実施されている。 ・社会福祉士の実習指導者を配置し、丁寧で充実した実習指導を行っていることから、a評価とした。 		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動は、フェイスブックで積極的に掲載されており、個別の法人資料等は広報誌、WAMNETで公開している。 ・ホームページの開設を検討されると良いことから、b評価とした。 		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約している会計士によるチェック体制を整えている。 ・外部監査実施に向けた準備の必要を感じているとのことであつたので、b評価とした。実現し、経営改善が図られることが期待される。 		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの希望によりスポーツ少年団、子ども会等に参加するなど、地域との交流を大切にしている。 ・休日の行事や試合は、担当職員が非勤務日であっても対応している。これについては、勤務対応か否かを明文化されたものがないので、明確化する必要があることから、b評価とした。 		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b

<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受入れマニュアルを策定し、事前オリエンテーションを行い、公文のボランティアについては、実際に園内研修に参加してもらうなど、積極的に取り組んでいる。 ・ボランティアへの支援について、簡単なことから始めるとよいと思われる。それが結果として人材養成にもつながる。今後の支援体制の充実を期待して、b 評価とした。 		
<p>II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
25	<p>II-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が役員として、幼稚園や学校、地元社協に参画している。 ・今後は、関係機関とのネットワークづくりに取り組むとのことであり、b 評価とした。実現し、子どものより良い養育・支援につながることを期待される。 		
<p>II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
26	<p>II-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に講堂を貸出しているが、施設の場所が地理的に不便なため、最近の利用申込みが少ないとのことであった。 ・今後、地域貢献について検討していくとのことである。社会福祉分野以外の機関とも連携するなど、斬新な発想をもって地域発展に貢献することが望まれることから、b 評価とした。 		
27	<p>II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、地域の民生委員・児童委員など福祉関係者との連絡会議等に参画して、地域のニーズを把握するところから始められるとよいと思われることから、c 評価とした。 		

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
<p>Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。</p>		
28	<p>Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の自己評価により気づきを得ているとのことである。第三者評価もよく活用されている。 ・子どもを尊重した養育・支援提供の見直しについて、思いついた時に実施するのではなく、 		

<p>定期的な機会を持つなど、システムとして構築することが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直しの際に、ヒヤリハット報告についてもなされることが望まれる。 <p>以上のことから、b評価とした。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した 養育・支援提供が行われている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員倫理綱領、プライバシー規程が策定され、実際にプライバシーに配慮した心がけがなされている。 ・日々の実践から手順を導き出したマニュアルの策定が求められることから、b評価とした。 		
Ⅲ-1-(2) 養育・支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援選択に必要な情 報を積極的に提供している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年9月に「分園」が開設されている。それを要覧にも反映するなど、定期的な見直しが必要であることから、b評価とした。 		
31	Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等に わかりやすく説明している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへわかりやすく説明するなどの配慮について、ルール化が必要であることから、b評価とした。 		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援 の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の実践についてはケース記録で確認できた。しかし、引継ぎ等は書面で残すことが必要であることから、b評価とした。 		
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取 組を行っている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の嗜好調査、子ども会等のアンケートなどはあるが、総合的な満足度アンケートがないことから、b評価とした。今後、実施を検討しているとのことであり、期待される。 		
Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能してい る。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決の仕組み、取扱要綱は整備されている。 ・子どもは第三者委員に会ったことがなく、名前表示のみになっている。職員の多くも会ったことがない。第三者委員による面談や聴き取り等、仕組みがより機能するような工夫が 		

求められることから、b評価とした。		
35	Ⅲ-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中舎縦割り施設で、子どもと職員の距離が近く、すぐに何でも相談できる体制にある。 ・ 意見箱等がないことから、b評価とした。子どもが環境や職員に慣れるまでの期間には言い出せないことも、ここで拾えるかもしれない。複数の方法が用意されていることが大切である。 		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場ではその都度対応しているが、組織的かつ適切に対応していくためにもマニュアルを策定し、定期的に見直すことが望まれることから、b評価とした。 		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価・見直しする体制ができていないので、今後確立が望まれる。その際には、ヒヤリハット・事故報告の収集が重要であることから、b評価とした。 		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症予防マニュアルを策定し、過去の事例を踏まえ、看護師を中心に徹底的に取り組んでいることから、a評価とした。 		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度の避難訓練など、安全確保のための取組が行われている。 ・ 備蓄リストの作成、関係者名簿の更新が必要である。また、地元自治会や他団体等との連携が求められることから、b評価とした。 		

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が提供されている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準的な実施方法について、具体的にわかりやすく文書化されている。また、全国児童養 		

<p>護施設協議会作成の手引書である「この子を受け止めて育むために」を必携とする、などの取組を行っている。</p> <p>・実際に実施されているのかを確認する仕組みづくりが求められることから、b評価とした。</p>		
41	<p>Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>・毎年度当初に見直しを行うことになっているが、今年度は実施されていないとのことであった。</p> <p>・職員だけでなく、子どもの意見や提案も反映された検証・見直しがなされる仕組み作りが求められることから、b評価とした。</p>		
<p>Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより養育・支援実施計画が策定されている。</p>		
42	<p>Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な養育・支援実施計画を適切に策定している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>・自立支援計画を処遇会議で協議して策定されている。</p> <p>・アセスメントシートを活用するなど、手法確立が求められることから、b評価とした。</p>		
43	<p>Ⅲ-2-(2)-② 定期的に養育・支援実施計画の評価・見直しを行っている。</p>	b
<p><コメント></p> <p>・10月、3月に定期的な見直しを行っている。</p> <p>・必要に応じて緊急の見直しがなされるような仕組みの構築が求められることから、b評価とした。</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 養育・支援実施の記録が適切に行われている。</p>		
44	<p>Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>・ケース記録は専用ソフトが導入されている。</p> <p>・子どもの強みや長所、発見などに配慮した記録、記録の共有化の範囲等、ルールや書き方の統一化を図り、記録内容の充実のための取組が求められることから、b評価とした。</p>		
45	<p>Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>・個人情報保護規程が作成され、パスワード管理がなされている。</p> <p>・管理責任者の明示が必要であるため、b評価とした。</p>		

内容評価基準（41 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
<コメント> ・職員が日々の養育・支援の内容について振り返り、相談する体制が出来ていないとのことであったので、b評価とした。		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
<コメント> ・職員会議録、処遇会議録、ケース記録等で適切に事実を伝えようと努め、事実を伝えた後の適切なフォローが行われていることが確認できた。アルバムも丁寧に作っており、好感が持てたことから、a評価とした。		
A-1-(2) 権利についての説明		
A③	A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<コメント> ・子どもの権利についての研修に参加し、年に1回は園内研修で学習していることを、ヒアリング・出張復命書で確認できた。 ・全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明してきているが、今年度は未実施とのことだったので、b評価とした。		
A-1-(3) 他者の尊重		
A④	A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるようしている。	b
<コメント> ・子ども間でトラブルが生じた場合は、子ども同士で関係が修復できるよう支援している。 ・おやつ作りや農業体験、子ども会行事への参加など、子どもが協働して行う場面を設定し、助け合い、協力し合うよう支援している。 ・勤務時間内に職員と子どもが個別的にふれあう時間を確保することは困難とのこと、勤務時間外で行っている。加えて、子どもたちが年下の子どもや障害のある子どもなど、弱		

<p>い立場にある仲間に対して思いやりの心を持って接するように支援することについては、ヒアリングにて「支援しているつもりであるが困難も感じる」とのことであり、一層の努力が求められると判断し、b評価とした。</p>		
<p>A-1-(4) 被措置児童等虐待対応</p>		
A⑤	<p>A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設長自ら、就業規則や被措置児童等虐待防止ガイドライン（山口県）などで具体例を示し、研修を企画・参加していることをヒアリングで確認した。 規程等への体罰等の禁止の明記、被措置児童等への不適切対応があった場合の体制整備が出来ているので、a評価とした。 		
A⑥	<p>A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 不適切なかかわりがあった場合の具体的な対応方法の確立が、就業規則等で出来ていることを確認した。 不適切なかかわりの防止の徹底については、会議等で日常での具体的な例などが取り上げられていることをヒアリングにて確認したが、検討し方針を出すまでに至っていないため、c評価とした。 		
A⑦	<p>A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 被措置児童虐待防止ガイドライン（山口県）、危機対応マニュアル、権利ノートにて、届出・通告に対して誠実に対応するための体制整備や、子どもが自ら訴えることが出来るように資料配布・説明が出来ていることが確認できたので、a評価とした。 		
<p>A-1-(5) 思想や信教の自由の保障</p>		
A⑧	<p>A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ヒアリングにて、子どもの思想・信教の自由について配慮出来ていると判断し、a評価とした。 		
<p>A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮</p>		
A⑨	<p>A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設見学の希望があれば、積極的に施設全体で受け入れている。 子どもの分離体験に関しては、配慮の具体性に欠けている。分離体験からの回復に関する具体的な取組や、入所の相談から施設での生活が始まるまでの、子どもや保護者等への対 		

<p>応についての手順の定期的な見直しが出来ていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにおいて職員の熱意は感じられたが、組織的な取組と確認ができなかったことから、c評価とした。 		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会などを中心に行われており、ヒアリングと自治会記録にて、職員と子どもの話し合いにより生活改善の取組、生活日課や生活プログラムの策定等が出来ていると判断したので、a評価とした。 		
A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活のリズムの基本的な部分は職員が作成しているが、ゲームやスマートフォンなどの使用については、各ホームで子どもが主体的にルールを作成し生活している。スポーツ少年団へも参加している。これらのことをヒアリングや見学において確認し、子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活が出来ていると判断したので、a評価とした。 		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理については、大人と一緒に小遣い帳を付けていることを小遣い帳とヒアリングで確認した。児童手当等の、子どもの目的に合わせた適切な使用や貯蓄も実施出来ている。 ・大人と一緒に買い物に行く機会があまり持てず、金銭感覚が十分身についていない。また、リービングケアについての取組が不十分であることからb評価とした。 		
A-1-(8) 継続性とアフターケア		
A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども本人、保護者への家庭復帰相談の実施は、ケース記録で確認できた。 ・子どもの家庭復帰にあたっての復帰後の生活の検討や子ども、家族の状況把握、支援方法など関係機関との役割分担は、ヒアリングにおいて職員の子どもに対する思いは聞いたが、家庭復帰後の子どもや保護者等の状況について記録が確認できず、マニュアルも無く、担当職員の裁量に委ねている状況であるため、c評価とした。 		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a

<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学2年生くらいから将来について話し合い、本人の思いを大切に支援している。 ・ 中退等により高校在籍が困難な子どもに対しては、担当職員が子どもの思いを確認しながら、最善の方法を考えるようにしている。 <p>以上をケース記録とヒアリングで確認できたので、a評価とした。</p>		
A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 退園後、本人からの連絡だけでなく、就労先などからの連絡やトラブル発生時の連絡の対応は、出来ている。 ・ 退所後の生活に向けてのリービングケア、退園後の相談担当者、退園後の状況把握及び記録の整理等に関しては、職員の裁量で支援していることが多く、園として取り組みにまで至っていないので、c評価とした。 		

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホーム見学、自立支援計画、利用者アンケート、職員や子どもたちからのヒアリング等で子どもを理解しようと努力し、子どもが表出する感情や言動を受け止めて支援していると判断できたので、a評価とした。 		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ少年団への参加や公文学習などに取り組んでいる。 ・ 子どもと職員の話し合いのもと、子どもの基本的欲求に対して柔軟に対応している。 ・ 施設長も、衣食住をきちんとすることを常に助言している。 ・ 食事のアレンジや食事の温度にも気配りをしている。 ・ 個別の外出の機会などに乏しく、触れ合う時間確保が課題である。 <p>以上のことから、b評価とした。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の時間帯などで必要以上に手伝って学校へ送り出してしまうこともあるが、言葉使いについて指導し、大きな声を出さないなど近所迷惑にならないように、社会に出て困らない 		

<p>ように支援している。又、幼児のトイレトレーニングや、小学生へ洗濯の仕方を教えるなど、年齢に応じたことが出来るよう支援していることを、ヒアリングで確認した。以上のことから、a 評価とした。</p>		
A⑱	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の子どもステーションへの登録、公園や図書館で絵本を読む、山陽小野田市での泊りがけ農業体験、作文ボランティアや公文ボランティアなど、地域資源を活用しての発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。これらを行事企画書・ボランティア申込書・公文教室日報・ヒアリングで確認したので、a 評価とした。 		
A⑲	A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームの見学とヒアリングにて「基本的な生活習慣が身につくようにするにはどういう風にしたら良いか、絵に描いて掲示する」などの取組を確認し、施設生活・社会生活の規範等守るべきルールや知識などを子どもに理解できるように伝え、習得出来るように支援している。 ・職員が普段から振る舞いや態度で子どもの模範となることについては、参観日や保育参観はしているが、机上の整理整頓など、職員が模範を示す努力が必要であること、社会的ルールを習得する機会の設定は、ヒアリングにて「地域の祭りには参加しているが子ども会には加入していないなど、まだ出来ることがある」とのことであった。 <p>以上により、b 評価とした。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A⑳	A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事が出来るよう工夫している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正月・盆料理、誕生日には、好きなメニューを盛り込み楽しい食事になるように、献立会議で栄養士と話し合い工夫をしていることを、給食日誌・ヒアリングで確認したので、a 評価とした。 		
A㉑	A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたのすききらいアンケート」を年1回行い、栄養士を中心に取り組んでいる。又、アレルギーのある児童には栄養士・看護師が連携して対応している。 <p>よって、子どもの嗜好、発育に必要な栄養摂取及び個々の健康状態に配慮のこもった食事の提供が出来ていると判断し、a 評価とした。</p>		
A㉒	A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a

<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長の「温かい食べ物は温めて提供する」という方針の下、各ホームにキッチンがあり、調理体験を個別に行っている。栄養士・看護師とも連携が取れており、職員の爪チェックや、冷蔵庫の中の衛生チェックが毎週行われている。 これらを、調理体験日誌・ヒアリングにて確認し、子どもの発達段階に応じた食習慣の習得や食育の推進が出来ていると判断し、a評価とした。 		
<p>A-2-(3) 衣生活</p>		
A②④	<p>A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吉敷愛児園 養育の標準的な実施方法について」にて明示され、職員は声掛けをしている。しかし、衣類の整理が出来ていなかったり、靴の汚れがあったりすることもある。又、小学6年生までは職員が衣類を片付けている。 よって、衣替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得が十分に出来ていないので、b評価とした。 		
<p>A-2-(4) 住生活</p>		
A②⑤	<p>A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームの見学とヒアリングから、園内がきれいに整美されており、温かみのある家庭的な雰囲気づくりや、子どもの年齢に応じて設備が使いやすいような配慮等が出来ていると判断し、a評価とした。 		
A②⑥	<p>A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生は出来るだけ個室にして、一人の空間を確保している。 ・見学・ヒアリングにおいて、小規模グループでの養育、子どもが安心していられる場所になるような配慮等が出来ていると判断し、a評価とした。 		
<p>A-2-(5) 健康と安全</p>		
A②⑦	<p>A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにて「日常的に職員が手伝うことと、子ども自らが行うことを考えながら支援しているが、不十分に感じることもある」とのことだった。また、女子児童の健康状態の的確な把握については、男性職員から女子に対しては、対応困難なこともあるとのことであった。 以上のことから、b評価とした。 		
A②⑧	<p>A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に</p>	a

	対応している。	
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に、エピペン講習を実施したり、「看護師からのおたより」などを配布したりしている。これらやケース記録により、子どもの健康状態や発育・発達状況を把握した定期的な健康管理、医療機関との連携、服薬管理等が出来ていると判断し、a評価とした。 		
A-2-(6) 性に関する教育		
A 29	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育担当者を設けて取り組んでいる。 ・性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じた「カリキュラム」について、組み方の工夫、見直しを要するため、b評価とした。 		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A 30	A-2-(7)-① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の境界線は無いが、自分のスペースを意識するように声掛けをしている。 ・見学・ヒアリングにより、紛失防止のための片づけ方の指導、個人所有物での子どもの好みの尊重、子どもに配慮した所有物が分かる工夫等が実施出来ていると判断し、a評価とした。 		
A 31	A-2-(7)-② 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバムを確認したところ、良く整理されているので、a評価とした。 		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A 32	A-2-(8)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的問題に関してはすぐに対応している。 ・暴力問題への対応は危機管理対応マニュアルがあるが、見直しが求められるため、b評価とした。 		
A 33	A-2-(8)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育向上ネットワークがあり、危機管理対応マニュアルにより取り組んでいる。 ・子どもの言動に注意していくとともに、危機管理対応マニュアルの見直しが求められるため、b評価とした。 		

A ㉔	A-2-(8)-㉓ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「強引な引き取り対応マニュアル」がある。 ・ヒアリングにおいて、対応の周知徹底、児童相談所や警察との連携により子どもの安全への配慮が実践出来ていると判断し、a 評価とした。 		
A-2-(9) 心理的ケア		
A ㉕	A-2-(9)-㉑ 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤の心理担当職員が退職して、現在募集中とのこと。よって心理的な直接支援を受ける体制が整っていない。職員間での連携も課題となっていることから、c 評価とした。 		
A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等		
A ㉖	A-2-(10)-㉑ 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保し、公文学習で基礎学力が付くように支援していることが、公文関係の書類とヒアリングにおいて確認できたので、a 評価とした。 		
A ㉗	A-2-(10)-㉒ 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金等の情報提供、進路決定後のフォローアップ、高校中退児に対して予算を組んで社会経験が積めるように支援をする、などに努めている。 これらをケース記録とヒアリングにおいて確認できたので、a 評価とした。 		
A ㉘	A-2-(10)-㉓ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性を重んじ社会経験の拡大に取り組んでいることが、ヒアリングにおいて確認できた。 ・日常の買い物で「お釣りのないように小銭を使うことなどが出来ない」など、金銭管理についての支援が課題であるため、b 評価とした。 		
A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
A ㉙	A-2-(11)-㉑ 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出外泊面会許可願・ケース記録・子どもの帰省記録等を確認した。 ・ヒアリングにて、帰省時の子どもの様子の把握について十分とは言えないため、b 評価とした。 		

A-2-(12) 親子関係の再構築支援		
A⑩	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	c
<コメント> ・ 自立支援計画・ケース記録・子どもの帰省記録を確認した。 ・ ファミリーソーシャルワーカーを中心に取り組んでいるが、児童相談所との協議が不十分で連携が図られていないため、c評価とした。		
A-2-(13) スーパービジョン体制		
A⑪	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
<コメント> ・ ヒアリングでは「スーパービジョン体制が確立してない」とのことであったが、自然と相談ができている職員もいることが確認できたので、b評価とした。		